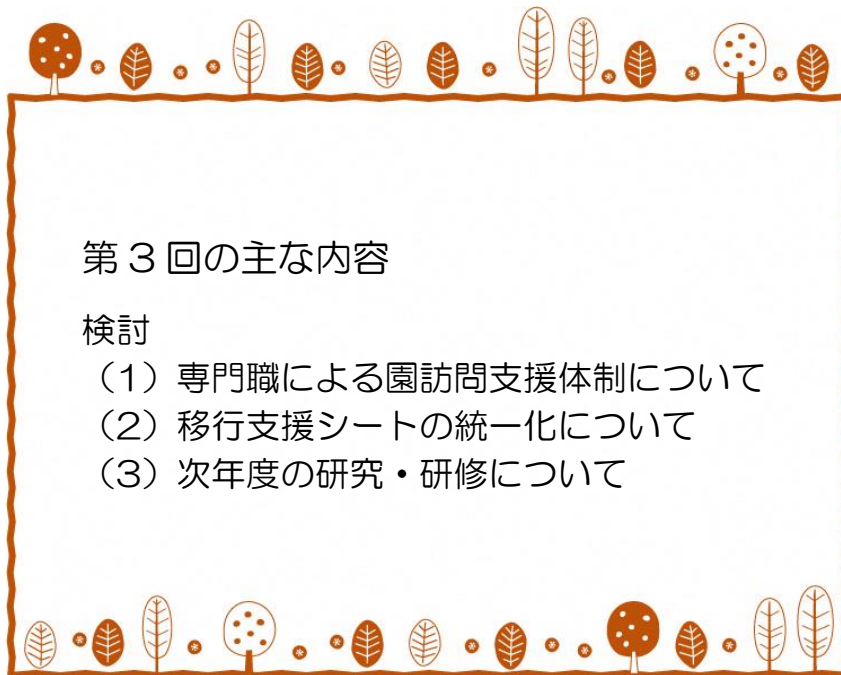




乳幼児教育・保育推進事業 通信
～令和6年度 発達・子育て支援専門部会～



令和6年10月15日（火）に、令和6年度第3回宇治市乳幼児教育・保育推進協議会 発達・子育て支援専門部会を開催いたしました。
部会の様子をお知らせします。



第3回の主な内容

検討

- (1) 専門職による園訪問支援体制について
- (2) 移行支援シートの統一化について
- (3) 次年度の研究・研修について

専門部会とは



「保幼小連携」「研究・研修」「発達・子育ての支援」の推進にあたり、現状の把握、課題抽出、対応策の検討、研究・研修の企画実施等について、乳幼児教育・保育の実務をよく知る職員の意見を反映できる仕組みとするために設置したもの。



○検討



（１）専門職による園訪問支援体制について

- 園訪問支援事業を実施する際の注意すべき点などを箇条書きにしてガイドライン化することが必要
- 既存の事業（園児の発達サポート事業・障害児保育指導員による巡回相談）との整理を行うとともに、相談内容に応じた適切な振り分けが必要
- 定期訪問の回数は3回、時期は「入園・進級して子どもたちの様子も園の体制も落ち着く頃」「運動会など大きな行事を経て成長が見られる頃」「次年度の進級に向けて園運営を進める頃」が適当
- 専門職の派遣による支援のより良い方法の確立に向けて、定期訪問の機会を通して、センターの職員が各就学前施設の先生と一緒に検討していくことが必要
- 園訪問支援事業を実施することについて、保護者への周知が必要

（２）移行支援シートの統一化について

- 保護者の心配ごとを中心に、小学校の先生に「これは知っておいてほしい」という内容について記述する
- 療育施設に通っていない子どもにも活用できるよう、就学相談などをきっかけに保護者と一緒に作成する
- 統一様式・記入の仕方について
 - ・どの就学前施設でも活用できるよう記入枠を0～5歳に広げる
 - ・「保護者の願い」欄には「本人の思い」欄と同様に、本人だけでなく保護者の不安に思っていることについても記述できるようにする
 - ・「就学前施設における長期目標」欄の「長期目標」は、年間を通した目標という意味合いなのか明確にしておく
 - ・「就学前施設における長期目標」欄の記入の仕方にある「豊かな生活を送るために必要なこと」と「困難を改善・克服するために必要なこと」については、より前者に着眼して記述するほうがよい



(3) 次年度の研究・研修について

<研究>

- 担任の先生が他自治体のように年8～10回程度集まって研究に参加するのは園の体制を考慮すると現実的に難しい
- 保育施設の場合、19時頃まで保育をしているので、時間的にも集まりにくい
- 研究には事前の準備に多くの時間を要するなど、相当な労力が必要
- 専門部会のように施設類型を越えて話し合うことで、お互いの保育を少しでも知り合うことができたので、研究が施設類型を越えた取組であれば意味がある
- 研修を兼ねた実践研究の方が取り組みやすい
- 公開保育を行い、その振り返りを実践研究とするなど最初はハードルの低いところからスタートする方がよい
- 公開保育の実践研究内容を学会などに提案して、その中身を成果物とする取組
- これまで宇治市の乳幼児教育・保育に関わっている大学の先生にも協力していただき、情報共有や事例の提供を通じて研究テーマを紹介していただく

<研修>

- 療育や障害には該当しないものの、どの施設にも身体の育ちが遅い子どもが多くいるので、身体の育ちをテーマとする研修
- 各年齢に応じた子どもの発達と障害の特性を兼ね合わせた内容の研修
- 年齢別の子どもの何気ないシーンを動画で撮影し、その動画を観て意見交換をするような研修（取組）



(仮称) 宇治市乳幼児教育・保育支援センターとは

施設類型を越えて全市的に連携・協働し、各施設での取組を共有することにより、これまで以上に、保幼小連携の取組推進や人材育成など、教育・保育の質の向上を図ることが可能となると考え、その仕組みづくりとして設置するもの。

宇治市乳幼児教育・保育推進協議会とは

すべての就学前施設が施設類型を越えたネットワークを構築すべく、乳幼児期子どもたちの状況や課題を共有し、連携、協働して研究・研修を行うことで、教育・保育の質の向上及び人材育成を図るとともに、各施設間、家庭・地域の教育・保育力の確保・向上を支援するため、設置したもの。

